



ベトナムにおける日本文学翻訳の歴史と位置づけ

ゲン, タン タム

(Citation)

国際文化学, 27:19-42

(Issue Date)

2014-03-25

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCOI)

<https://doi.org/10.24546/81005466>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005466>



ベトナムにおける日本文学翻訳の歴史と位置づけ

The translation of Japanese Literature in Vietnam

—The History and Position—

グエン タン タム

NGUYEN Thanh Tam

Summary

In this paper, the author examines the process and features of Japanese literature's translation in Vietnam through historical periods from the perspective of Polysystem theory. Although Vietnam and Japan are both belong to kanji-bunkaken (the cultural zone of China) and the first Japanese novel was translated into Vietnamese in 1913, the number of Japanese literary works is still small comparing with that of other foreign literature in Vietnam. Moreover, until the 1990s, most of them were translated indirectly, through an intermediary language such as Chinese, French, Russian, or English. To explain that phenomenon, it is necessary to reconfirm the status of Japanese literature in close relation with Vietnamese socio-cultural background as well as in relation with other foreign literature. Moreover, Even-Zohar's "polysystem is conceived as a heterogeneous, hierarchized conglomerate (or system) of systems[...] it follows that polysystems can be postulated to account for phenomena existing on various levels, so that the polysystem of a given national literature is viewed as one element making up the larger socio-cultural polysystem" (Shuttleworth, 2009). With that in mind, this paper applies the Polysystem theory's approach to investigating the historical and literary factors that affect the translation of Japanese literature at two levels—in the whole system of literature of Vietnam and in the system of translated literature of Vietnam. As a result, we will see how the Vietnamese history with sharp changes has had a strong impact on the tendency of translating Japanese literature in Vietnam. Additionally, the reasons for which Japanese literature remains a peripheral part in the translation literature system of Vietnam, and therefore to be influenced by the translation literature at the central place, will be clarified.

キーワード

ベトナム、日本文学、翻訳史、位置づけ、ポリシステム理論

I はじめに

翻訳は歴史上、文明・文化が触れ合う手段として重要な役割を果たしてきた。ベトナムと日本の正式な国交関係は今年40周年の記念を迎えるが、文化的交流はもっと早くから行われており、例えば日本文学は20世紀の初頭からベトナムで翻訳され受け入れられてきた。昔から日本とベトナムは中国の漢字を借用し、自国の言葉と文字を展開し続けてきた。従って、他の欧米言語に比べると、日本語はベトナム語に近いし、言葉の意味も語感も共通する所が多く見受けられる。しかし、ベトナム語に翻訳されている日本文学は、他の世界文学のジャンルに比べてまだ数が少なく、またほとんどのものは、英語・フランス語・中国語などの媒介言語から翻訳されてきたというのが実現である。それはなぜであろうか。その答えは、「ベトナムにおける翻訳は歴史の経過と変動と共に変化してきた」(Hoàng, 1999)と述べているように、ベトナムの特殊な社会・歴史の中で探る必要がある。

ベトナムは中国と国境を接しており、中国文化に強い影響を受け、19世紀から20世紀前半のフランスによる植民地化の時期を経て、対仏・米の戦争により独立を得て、現在は社会主義のもとで改革解放の政策を進めている。この変動が多い歴史によって、1990年代までのベトナムは、日本との交流に妨げが多く、日本の言語・文化の専門家が少なかった。

本稿では、こうした歴史的背景及びベトナムの翻訳史や社会的制約が、ベトナムにおける日本文学の翻訳の位置づけにどのような影響を与えてきたかを考察することとする。また、ベトナムの文学界の一部としての日本文学翻訳の展開経緯と各時期の特徴を明らかにすることを旨とする。

研究の枠組としては、「翻訳はもはや性質や境界がはっきりした現象ではなく、文化システム内の関係に依存した行為である」(Even-Zohar, 2000)ため、日本文学翻訳の現象について説明するに当たり、歴史や社会思考という様々なシステムの制約や広い文脈を考慮するポリシステム理論の応用を試みる。ベトナムの翻訳、及び日本文学翻訳についての先行研究を踏まえながら、ポリシステム理論から改めてベトナムの文学翻訳史の全体像を把握し、その一部である日本文学の役割を確認する。次に、ベトナムにおける日本文学翻訳の経緯と特徴を歴史的出来事と関連づけ、簡潔に論述する。

II ポリシステム理論から見たベトナムの文学翻訳の概要及び日本文学翻訳の位置づけ

本節ではポリシステム理論を援用して、ベトナムの特殊な歴史背景におけるベトナムの翻訳史の概要と日本文学翻訳の果たしてきた役割について考察する。

ポリシステム理論 Polysystem theory¹⁾は、イーヴン＝ゾウハーにより提唱され、ある社会・文化の規範と背景の全体の中での、翻訳文学の役割を特定し評価する理論である。ポリシステム理論の中核は、ある国の文学は異質な複数の小さいシステム(要素)から成り立つ階層的な集合体のシステムであると捉え、中心部にある「正統」の文学は周辺にある他の文学ジャンルに影響を及ぼすとした(Even-Zohar, 2000: 193-194)。従って、翻訳文学の特徴とその役割も、それが大きな文学システムの中で、どのような位置づけにあるかによって変わるものである。また、このシステムの概念は様々なレベルの現象に適用が可能である(Shuttleworth, 2009)ため、ベトナムのケースに応用する際に、ベトナムの文学全体、及びベトナムの文学翻訳という2つのレベルを別の集合体として捉えたい。つまり、ベトナムの文学全体のポリシステム、そしてベトナムの外国翻訳文学のみのポリシステムのそれぞれに、ポリシステム理論を適用し、論述する。

2.1 ベトナムの文学翻訳の概要

まず、ベトナムの文学全体を一つのポリシステムと捉えれば、そこにはベトナム人作家が書いたベトナム文学の各ジャンルやベトナム語に訳された外国文学がある。その中での各成分、例えば外国文学翻訳やベトナム語の児童文学の間には相互的な関係があり、中心部を占める正統な文学ジャンルの影響を受ける。イーヴン＝ゾウハーによると、翻訳文学は多くの場合周辺的な位置にあるが、中心的な位置になり得ることもあるとし、以下の3つの状況を挙げている(Even-Zohar, loc.cit.)。

①「若い」文学が成立途上の時。ポリシステムが完全に形成されていないため、新しい文学が外国文学の既存のモデルから多様なテキストタイプを導入することで始まる。

②小国の文学が他の大国の文学に圧倒されているような時期は、その小国の文学がシステム内で「周边的」で「弱い」地位にあり、翻訳文学が中心的な位置を占めることになる。

③文学の危機的時点、またはポリシステムの転換期。確立された古いモデルが持ちこたえられなくなって、翻訳を通して新しい思想が流入することになる。

興味深いことに、ベトナムの翻訳史では、イーヴン＝ゾウハーが指摘した翻訳文学が中心的な位置を占め得る3つケースの全てが該当する。以上の3つのケースをベトナムの翻訳史に当てはめてみると、以下のように説明できよう。

①に対応するのは、中国の北方封建国家に服従していた時期(紀元前1世紀～10世紀)である。紀元前1世紀まで遡ると、古代のベトナム人は中国の南の地域で生活し始め、文字はもちろん、文明はまだ形成されていなかった。その後すぐに中華帝国の軍事的侵略を受け、政治・経済・文化的に従属する時期に入った。中国の封建王朝に服従していた千年

の間(紀元前1世紀～937年)、漢字、社会の仕組み、論理や宗教の思考などの漢族文化が、最初は「同化政策」として強制的にベトナムの社会に導入された。漢字を用いる際に、ベトナム語はオーストロアジア語派のモン・クメール系言語の中の一派であり、中国語とは違う系統に属しているため、「越音読法」、すなわちベトナム語の音で漢字を「翻訳」する方法を使わなければならなかった。漢字の音・意味の面は徐々に越化されつつあり、ベトナムの漢語、いわゆる「漢越語」²⁾を完全に形成して、外来文化の要素の「翻訳」が大きな機能を果たしたと考えられる。それ以前は口承文芸しかなかったが、中国の漢詩・漢文を模範にした漢字で書かれるベトナム文学の作品が徐々に現れてきた。

他の根拠としては『禪苑集英語録(Thiền Uyên Tập Anh Ngữ Lục)』というベトナムの仏教史に、6世紀頃ベトナムにおける仏教の經典の翻訳があったとの記述がある。恐らくこれはベトナムの最も早い翻訳の一つだと言われている。唐代以降、仏教の経書は主に中国からベトナムに導入され、漢越語に翻訳口述され、より多くの民衆に普及した。

②に対応するのは独立政権を持ち、自立していた時期(10世紀～19世紀前半)である。938年にベトナムは中国からの自立を果たし、一時中断された³⁾が19世紀前半までかなり長期的な独立政権を維持することができた。この自立時期には、国家・民族の意識が高まり、中国の政治的支配に抵抗しながら、中華文化を積極的に受け入れるという傾向が主導の流れであった。その後、儒教思想をはじめ、大国である中国の文化はベトナムの生まれただばかりの学問・文学に強力な影響を及ぼした。漢字は、聖人⁴⁾や知者の知恵が含まれる書物の文字であると信じられ、漢字で詩・文章を作ることは科挙制度⁵⁾の試験の科目に組み込まれた。文学的な能力は、社会的・政治的な地位の上昇、立身出世と深く結びついていた。

一方、自国の言語を維持する努力として、13世紀になって、国字のチューノム(「字喃」)⁶⁾が成立したことに伴い、中国の文学作品をチューノムに翻訳することが勧められ、ベトナム人の作家によるチューノムで書かれる著作も増えた。19世紀前半にグエン・ズーが、中国の通俗小説『金雲翹伝』から翻案したチューノムでの長編叙事詩である『キュウ物語』(別名:金雲翹)はベトナム文学の金字塔と言われている⁷⁾。しかし、結局チューノムは漢字を完全に置き換えることができず、漢字・漢文が引き続き広く正式に用いられていた。王朝の官僚や知識層は、中国の古典の漢詩と漢文を読み、民族の文学の基礎を築いたといえる。四書、五経など儒教の経書が社会の規範になり、ベトナム人の思考に大きな影響を及ぼした。

③に対応するのは植民地時期・西洋文明文化と接する初期(1867年～20世紀半ば)である。1867年からフランスの植民地になり、ベトナムは西洋文明・文化に接し始めた時期である。長い間中国の影響を受けていたベトナムの社会は、完全に異質な西欧文化と接し始め、「ショック」を受けざるを得なかった。この時期は先祖が信頼して使っていた「漢文」か、或いは西洋の響きが強い新しい「クオックグー字」chữ Quốc ngữ(国語字=ローマ字表記)を選ぶのかという選択を迫られる危機的時点であった。今後のベトナムの文化・文

学の展開を左右する重大な決定において、西洋的なクオックグー字が勝利を得た⁸⁾。この転換期において、自作を書くために、多くのベトナムの現代作家の第一世代は中国の古典文学(明・清小説)や西洋文学(フランス、イギリスなど)を翻訳する経験を積んだという。

この時期にも、翻訳はベトナム文化の歴史において大切な役割を果たしつつ来た。Nguyễn Văn Hiệu (2007)は文学翻訳と文化背景の関係を肯定する立場から、1867年から1900年代中期にかけて、ベトナムにおける文学翻訳の歴史をより小さい三段階に分けている。最初は19世紀末の時期であり、以前公式の文字であった漢字とベトナム語の独自の字喃の書籍をクオックグー字に翻訳した段階である。これは宣教・植民地化の一つの政策として使われ始めたが、クオックグー字の有効性が知識層に理解され、短期間のうちにベトナム全土に普及することになった。次の段階は20世紀の最初の30年で、「西東文化の混合」という時期である。この段階で、「開民智、振民氣、厚民生」⁹⁾の方針が掲げられ、中国とフランスを始め、多くの外国作品がクオックグー字に翻訳され、出版され始めた。第3段階は1930年から1945年まで、都市の文化や西洋風の新しい生活様式が反映できる新しい文学作品を、新学¹⁰⁾の知識人の読者は要求した。フランスや旧ソ連(ロシア)などの文学の翻訳書はベトナムの作家たちの一つの参考資料になったようである。

このように、「ポリシステム理論」の観点から見ると、ベトナムの歴史の始まりから20世紀の半ばまでを通して、翻訳文学は文学の全体システムの中で長期間にわたり中心的な位置を占め、非常に重要な役割を演じてきたということが確認できた。こうした背景は、翻訳文学の一つである日本文学翻訳にも必然的に多様な影響を与えたと思われる。

2.2 日本文学翻訳の位置づけ

では、翻訳文学が長い歴史で重要な役割を演じてきたベトナムにおいて、日本文学翻訳はいかに展開していったのか。それを明確にするために、ポリシステム理論の立場から見て、日本文学翻訳がベトナムの翻訳文学システム全体の中で、正統の翻訳文学に対して、どのような位置づけにあったかを見ていく。この節では、改めてポリシステム理論を用いて、重要な節目の各時期において、日本文学翻訳の位置づけとその特徴について考察する。

ベトナムの外国翻訳文学を一つの集合体のシステムと見れば、そのシステムは、中国文学、欧米文学、ロシア文学、日本文学などから形成されると考えられる。その大きなシステムの中心部に位置し、社会の規範の役割を演じて、他の翻訳文学の要素に影響を及ぼす「正統」の翻訳文学は、時代や歴史的背景によって変化していく。ベトナムの翻訳文学のシステムで中心部にあり得る外国翻訳文学は、19世紀の直前までは文化的影響が大きい中国文学であり、植民地時代に主流になったのはフランス語、英語などの西洋文学といった具合に変化していったのである。これらも、ベトナムとの文化的・言語的交流の歴史と緊密なつながりがある言語・文化だと思われる。

それに対して、ベトナムと日本の交流は早い段階に始まるが、安定した関係が築かれるには時間がかかったと言える。古代時代に(8世紀頃)阿倍仲麻呂の船がベトナム中部に漂着したという記録があり、両国の交流が始まったと言われている。16世紀から17世紀初頭にかけて、日・越の貿易関係が一時盛んになったが徳川幕府の鎖国令により終了した。20世紀の初頭に明治維新をはじめとして、特異な国民気質をもった日本に憧れ、「東遊運動」^{ドンスー}の下で300人ほどのベトナム人が留学のために訪日した。しかし、日仏協約により1909年には留学生全員が国外に追放され、東遊運動は終焉を迎えた。その後、対フランス・アメリカ戦争や太平洋戦争などにより日本との交流は一時中断したが、1973年にベトナム民主共和国(北ベトナム)政府と日本との間に正式な国交を樹立することで合意に至った。しかし、その後様々な誤解もあり、この関係はしばらく進展しなかった。このようにベトナムと日本の関係には阻害要因が多く存在し、幾度か中断された。結果として、日本の言語・文化の研究はあまり進展せず、日本語の翻訳者は大変少なかった。

以上述べた歴史的背景はベトナムにおける文学翻訳の事情にも影響を及ぼしたと見受けられる。ベトナム語に翻訳された日本文学は少数であり、周辺的な位置付けであった。

その事実は、翻訳の作品数に現れている。古い時代の文学翻訳の作品数の詳しい記述はないが、Hoàng (1999: 27-30)によると、1984年～1989年の間、ソ連文学は300作品(タイトル)、フランス文学は約100作品、イギリス文学は70作品、アメリカ文学は60作品が出版された。それに対して、日本文学が出版されたのは16作品のみであり、まだ「紹介されたばかりの段階」にあったという。さらに、1989年から1992年にかけて、文学翻訳の統計の837冊の中で、アメリカ文学は183作品、フランス文学142作品、イギリス文学は114作品、その他中国文学は41作品、ソ連・ロシア文学は20作品であったが、日本文学はわずか6作品しかなかった。一方、Hà (2003: 15)によれば、2000年代以前のベトナムには、日本文学の翻訳は中国語(漢語と現代中国語を含む)、フランス語、ロシア語をはじめ、媒介言語からの重訳の作品が圧倒的に多かったという。とりわけ、1945年から2001年にかけて、媒介言語を介した日本文学のベトナム語訳の数が増えることによって、文学システムにおける日本文学翻訳の位置は上がっていった。日本文学は翻訳の伝統が長い中国文学、フランス文学、英語文学、ロシア文学に比べれば数は少ないが、それらに次ぐ位置にあり、南米や北欧、アフリカ地域の文学と比べれば、かなり作品数は多くなってきている。それに加えて、1980年代から「水月」という川端康成の短編はベトナムの教育機関でも教材に取り上げられるまでになっている。

とはいえ、ベトナムの翻訳文学のシステムにおいて周辺的な位置にあり続けており、日本文学翻訳は、「中心部」を占める要素(時代によって、中国文学や仏・英語文学が交替してきた)に支配され、影響を及ぼされることになる。

III ベトナムの文学状況における日本文学翻訳の歴史と特徴

前節で述べた通り、歴史的出来事はベトナムの文学と翻訳に非常に大きな影響を及ぼした。日本翻訳文学も、ベトナムにおける文学システムの一つとして、その時代の変動に関わっていると考えられる。本節では時代に沿って、ベトナムにおける日本文学翻訳の背景と特徴を明らかにしたい。

そのため、まずベトナムにおける日本文学の翻訳出版状況について、先行研究の成果や様々な資料を調査してまとめたものを、作品一覧として作成した(巻末添付資料参照)。Hà (2003)や Nguyễn Thị Thanh Xuân (2008)の先行研究では約 60 作品について報告があるため、それを参考にしたが、重訳版の情報や出版年などの情報が抜けているものは、可能な限り補充し、また出版社のインターネットのサイトなどから新たに 90 作品ほどを追加し(2011年時点まで)、140 作品¹²⁾の作品一覧表として作成したものである。ただし、現段階でも不明、あるいは未確認の情報もあり、それは空欄のままとなっている。これを出版年の順で並べたリストを資料として巻末につけておく。この一覧表も参考にし、以下の考察を行う。

日本文学作品の翻訳の歩みについては、ベトナムの歴史および文化的背景の変動と緊密な関係があることから、Nguyễn Thị Thanh Xuân (2008) は、3段階の区分を提案している。本稿では、それに加えてベトナムの出版に大きな変化があった 2002 年を節目とし、それから現在にかけてというもう一つの段階を補充し、歴史的に 4つの主な段階に分けてみたい。

3.1 1945年以前の時期

日・越の重要な文化交流の活動は 20 世紀の初頭から始まった。この時期、ベトナム語に訳された日本文学について統計はないが、わずかな数であると考えられる。一例として、1913 年頃東遊運動のリーダーの一人であり、漢文の素養に優れた知識人・民族家のファン・チュ・チン Phan Chu Trinh (漢字: 潘周楨、1872-1926) は、初めて日本の政治小説の『佳人之奇遇』(東海散士著)をベトナム語に翻訳した。その契機になったのはファンが、1906 年に訪日した時、梁啓超の『佳人之奇遇』の中国語訳と出合ったことだと言われている (Vinh Sinh, 2000)。ビン・シン Vinh Sinh (2000) によれば、ファンがその小説の全 16 巻の中、最初の 8 巻を選んで訳したのは特別な意味があった。なぜなら、それらの巻は日本の維新運動の愛国精神を称揚するというテーマを取り扱ったからである。残りの後半の 8 巻は日本が軍国主義に進む段階を描き、極端に国家主義の響きが強かったため、主なあらすじも左右されたという。更に、この作品を翻訳したといっても、ファンはベトナム人に馴染みが深い thơ lục bát=「(詩)六・八言」という詩の形で話を再現した。

次の 20 世紀の 1930 年代の段階で、ベトナムの北部をはじめ、日本文学に触れたわずか

な投稿が現れ始めたのである。その中で、ハン・マック・ツーHàn Mặc Tử というベトナムの有名な詩人は“Thi văn Nhật Bản với phong trào Âu hóa” (日本詩と欧米化の運動) で、短歌、俳句、都々逸、及び新体詩を紹介し、川路柳虹と萩原朔太郎などの日本の詩をいくつか翻訳した(Nguyễn Thị Thanh Xuân, 2008: 81-82)。また Tri Tân (=知・新) という文化の週刊誌には 1941-1945 の間、日本の唐詩に関する Bách Thảo Suong Tiên Nữ¹³⁾の連載もあった。Hàn Mặc Tử と Bách Thảo Suong Tiên Nữ の日本語の力について情報がないものの、両者とも英・仏文学の翻訳において活躍していた人物である。それ故、これらの記事に使われた日本文学の資料は重訳だと考えられる。

政治小説の一冊と日本の詩の概要を紹介したものもいくつかあるが、日本文学と接する過程の始まりに過ぎず、その紹介は簡単なもので入門程度であったが、まだ馴染みの無い日本文学のイメージを知るためにベトナム人読者にとっては大変必要なものであった。

1940年代に、大東亜戦争あるいは太平洋戦争で、日本軍は東南アジアに侵攻した。「新亜雑誌」や「大東亜戦争」などという日本の支援を受けた新聞では、日本文化の武士道や茶道だけではなく政治の話題を多く掲載した。文学の紹介は演劇のいくつかの翻訳に過ぎなかった。1944年から1945年にかけて、Trung Bắc chủ nhật 誌(「中・北日曜」誌)の連載として、小松清の小説の『再会』(ベトナム語のタイトル)がグエン・ヤン Nguyễn Giang によってベトナム語に翻訳された¹⁴⁾。

3.2 1945年～1974年の時期

1954年のジュネーブ協定¹⁵⁾の調印によって、北緯17度線を境にし、ベトナムは北部と南部に分断された。こうした政治・文化的背景の影響を受けて、日本文学の研究や翻訳も南北でそれぞれ異なる方向で展開された時期である。

北部では、社会主義の思考の響きがある日本のプロレタリア文学が注目された。この段階では、ベトナムの翻訳文学のシステムにおいて、ソビエト時代の文学や中国近代文学の人气が高かった。その影響を受け、日本文学の作品は主にロシア語を経由し、訳された。1958年に小倉豊文の『絶後の記録亡き妻への手紙』、1961年に徳永直の『太陽のない街』、1964年に宮本百合子の『播州平野』、1963年に小林多喜二の『蟹工船』などがベトナム人読者に紹介された。

南部においては、サイゴン(ホーチミン市の旧名)政権はアメリカの同盟国である日本と正式な外交関係を樹立した。そのため、様々な文化交流活動が進み、日本文学の代表的な作品に関心が向けられた。とりわけ芥川龍之介(『河童』、『羅生門』)、川端康成(『伊豆の踊り子』、『雪国』、『千羽鶴』など)と三島由紀夫(『真夏の死』、『金閣寺』、『宴のあと』など)といった作家の作品集が系統的に出版された。特に『羅生門』と『千羽鶴』には数種類の翻訳があった。また、夏目漱石の『心』、安部公房の『砂の女』、大江健三郎の『飼育』などという傑作もあり、ベトナム人読者に日本文学の魅力的な特色を紹介することが

できたようである。この時期、南部で翻訳された日本文学には近代文学や耽美派、新感覚派の文学もあり、北部の状況と比べると、よりジャンルが多様であり、作品数も多いと見受けられる。英語、フランス語をはじめ、重訳が主流であったものの、日本語から直接翻訳された本も現れた。ただし、日本語ができる翻訳者は大変少数であり、他言語の翻訳版を参考にしながら、原文を翻訳するようになった。Đỗ Khánh Hoan (フランス語・英語の翻訳者) と Nguyễn Tường Minh (日本語の翻訳者) のようなコンビが行った三島由紀夫の作品の翻訳は好評を博した。

1945-1975の間、ベトナム語に訳された日本文学は全部で32作品ほどあり、前の段階よりずっと増えた。それでも、日本文学の翻訳はベトナムの北部では旧ソ連、中国とフランスの文学の翻訳よりかなり少なく、南部では欧米文学の翻訳と比べものにはならない数である(Cf. Hà, 2003)。

3.3 1975年～2001年の時期

1975年は抗米戦争、いわゆる「ベトナム戦争」が終わり、統一ベトナムが実現した。1975年から1980年代前半までは、ベトナムは国内経済をはじめ、国際関係など様々な困難があった。長年の戦争の余波を受け、産業が少なく弱体化していたため、復興には主に旧ソ連の援助に頼った。その背景はドイモイ(1986)という維新改革のきっかけになった。ドイモイは、ベトナムが世界の国々との外交関係を広げ、文化・文芸の交流をするよう促進した。結果として、文学翻訳も、量・質、思考の広さ・深さの面で大きく進展し、盛んになった。世界の古典の傑作をはじめ、社会主義の国以外の文学でも、また以前は「タブー」¹⁶⁾とされていたテーマの作品も、少しずつ翻訳され、読者に紹介された。

しかし、その後国からの援助がなくなって、出版業界は自立しなければならなくなり¹⁷⁾、出版業は危機的状況に陥った。紙の価格上昇や市場の変動により、多くの出版社が廃業していった。文学翻訳に対する読者の態度も変わって、それまでの熱気も冷めることになったという。それ故、出版のアンバランスという状態に至った。旧ソ連などの文学が認められなくなり、欧米の文学の人气が高く多く翻訳されることになった。イギリスの探偵文学、フランスとアメリカのベストセラーなどが多く翻訳されることになった(Hoàng, 1999)。日本・ベトナムの関係については、1993年になってようやく両国関係が正常化し、経済・文化という多面での交流が進んでいく状況に至った。

前期に比べると、この時期の日本文学の翻訳作品は数が増えただけではなく(46作品ほど)、日本文学は古典から現代までの作品、それに小説と詩などのジャンルでは前の時期より多く多岐にわたって翻訳されたと見られる。日本古典文学の『平家物語』、『源氏物語』、『雨月物語』などがベトナムの国営の文学出版社の企画で、主に複数の英語・フランス語翻訳者の協力を得て、初めて読者に届けられた。日本現代文学について、前の段階で名前が知られるようになった作家の作品も引き続き翻訳された。川端康成の『古都』、『片腕』、

『眠れる美女』、芥川龍之介の『藪の中』、夏目漱石の『それから』、谷崎潤一郎の『鍵』、安部公房の『他人の顔』などが挙げられる。また、初めて翻訳された作家では島崎藤村(『家』)、三浦哲郎(『忍ぶ川』)や遠藤周作(『わたしが棄てた女』)があった。

3.4 2002年～現在の時期

21世紀の初めから現在にかけて、文学翻訳の状況が徐々に改善され、安定的な発展期に入った。ベトナムは2002年に文学的及び美術的著作物の保護に関するベルヌ条約に加盟した。それが契機となり、翻訳本の著作権に対する関心が高まり、同時に翻訳のプロセス・評価に注目が集まった。ベトナム出版局の統計¹⁸⁾によると、ベルヌ条約に加盟してから、文学翻訳の出版は国内文学を圧倒する傾向が現われた。各出版社の間で、外国のベストセラーの作品の著作権を獲得する競争が激しさを増している。

また、日・越の関係が急速に発展していくにつれ、ベトナムで日本語の学習者がますます増加の傾向にある。現在ベトナムにおいて、日本語教育がハノイ外国語大学(1973年から)と貿易大学(1993年から)や、ホーチミン市の人文社会大学(1994年から)など国立大学から、私立大学まで日本学科が開設されている。また、数多くの日本語学校も出来ており、大学などで本格的な日本語教育を受けた成果が現れ始め、日本文学の翻訳者の人材育成に、非常に好い時期を迎えていると言われている(Tran, 2010)。

翻訳文学の出版については、各出版社の間で、外国のベストセラーの作品の著作権を獲得する競争が激しくなってきた、日本文学翻訳の作品数も質も飛躍的に上昇した時期であり、僅かこの10年の間(2002年から2011年現在まで)に62作品ほどが出版された。そのうち日本語から直接訳されたことが確認できたのは38作品であり、6割を超えている。それは読者がより正確な翻訳を求めていることを考慮して、原文から直接翻訳を行う傾向が主流になってきたこととつながっている。再翻訳はベトナムの出版では未だ珍しいことであるが、川端康成の著作は最も多く翻訳されている。他には『金閣寺』(1970年と1990年)や『キッチン』(2000年と2006年)も時代に応じて再度翻訳の試みがあった。面白い例として『ノルウェイの森』の場合は、2回の訳版があり、同様に英語訳からの重訳であるが、最初の1996年版はあまり知られなかったが、後の2006年版は読者と評論家に温かく受け入れられた。

最近、鈴木光司のミステリー文学作品(『リング』、『らせん』)や新人作家である金原ひとみの(『蛇にピアス』)など、より多様な文学ジャンルの日本作品が翻訳されつつある。また、英語からの重訳もまだあるが、直接翻訳されるものが急速に増加しており主流になってきた。

これまで述べたように、ベトナムにおける日本文学の受容は、早い段階では中国語(漢

語と現代中国語を含む)とフランス語を媒介して行われた。次の段階はロシア語や英語を介した重訳を経て、ようやく21世紀に入って、日本語から直接翻訳されるようになった。それ故、様々な言語の重訳を通してベトナムに受け入れられた日本文学は、統一性がなく多種多様という特徴を持つと指摘されている(Hà, 2003)。

さらに、一覧表から、2001年以前ベトナム語に訳された日本文学の書物の約9割(71作品/78作品)は重訳(英語・フランス語・中国語など媒介言語からの翻訳)であることが見て取れる。そのため、ベトナムにおける日本文学翻訳史は、そのまま重訳の歴史でもあったと言っていいだろう。もう一つのベトナムにおける日本文学翻訳の特徴としては、古典文学より近現代文学、また韻文や劇より小説と短編が圧倒的に多く、優勢である。1990年代から現在にかけて、より広い文学ジャンルの日本作品が翻訳されつつあり、本来あるべき姿、即ち日本語の原文から直接翻訳されるものが優先され、徐々に増えていく傾向がある。

IV おわりに

ベトナムにおける文学翻訳の歴史は、ベトナムの社会変動・文化交流の歩みと緊密な関係がある。中国と西洋の文化・文明を受容する過程では、翻訳が大きな役割を果たすことが明らかになった。ポリシステム理論を踏まえ、ベトナムにおける文明・文化の開花と翻訳の発展の過程を振り返ると、翻訳が中心になった3つケースは次の3時期に該当する。

①中国の北方封建国家に服従していた時期(紀元前1世紀～10世紀):中国から漢族の文化が強制的に導入された。漢越語を完全に形成した時期でもある。

②独立政権を持ち、自立していた時期(10世紀～19世紀前半):生まれたばかりの学問や文学が中国の甚大な影響を受け続けていた。

③植民地時期・西洋の文明・文化と接する初期(1867年～20世紀半ば):中国文化と完全に異なる西欧文化と接し始め、ベトナムの文化・文学の大きな転換期である。

このように、ベトナム社会において、20世紀初期までの長い時期に、翻訳は外来文化の要素を伝播するのに大きな機能を果たし、外国文学翻訳がずっと文学全体のシステムの中核的な位置を占め続けていた。また、文学翻訳のシステムにおける日本文学翻訳の位置づけについては、中国文学や欧米文学に比べ、数が少なく劣位にあり、常に周辺的な要素である。

さらに、ベトナムにおける日本文学の翻訳は4つの主な段階を通じて、次のような特徴が明らかになった。第一に、1990年代まで、ベトナムにおける日本文学は、中国語、フランス語、ロシア語、英語など異なった媒介言語から訳されることが頻繁であり、重訳が非常に重要な役割を演じるようになった。それは戦争や政治的イデオロギーの違いなど歴史

問題によって、日本の言語・文化の専門家が稀であったからだ。21世紀に入ってようやく直接翻訳が増え始めた。第二に、政治や思想の影響で翻訳する作品に偏りが出たことなど、特殊な展開を示している。時期ごとに、翻訳された文学書のジャンルなどに変化が見られた。歴史的な制約が原因で、ある特定の作品しか訳せない時期もあった。そして、第三に、翻訳作品の構成が不均衡であると考えられる。歴史的な分析と作品一覧表から、ベトナムで翻訳された日本文学は古典文学より近現代文学(明治時代以降)、また韻文や劇より小説と短編が圧倒的に多く、優勢であるということが明らかである。

現在においても、他の外国文学に比べると、日本文学の出版部数はまだ比較的少ない状況であるが、日・越間の密接な交流関係が勢いを増していけば、近い未来においてベトナムにおける日本文学翻訳の位置づけと実績が上がっていくことも期待できるだろう。

(神戸大学国際文化学研究所博士後期課程)

注

- 1) 別名は多元システム理論。
- 2) 漢越語とは中国の漢語の要素を借用し、ベトナム語の発音で読まれた語彙であると定義される。現代のベトナム語の語彙の約7割を占めている。例:「越南」は漢越語の読み方にすれば= [viet] + [na:m] (Việt Nam)。
- 3) 属明期(1406年・1428年)を除く。
- 4) この場合は儒教の創始者である孔子、老子などを指す。
- 5) 儒教の経書に詳しく深淵な知識を持つ人を求め、王を政治的に補助する官僚を選択する制度である。1075年にベトナムの李朝の下、初めての科挙制度の試験が行われた。
- 6) 漢字の知識を使って、ベトナム語の民衆の話言葉や細かいニュアンスを表現するため作られた文字である。多くの資料によると「喃越語」は10世紀から「漢越語」と共に、存在していて、13世紀にチュノムを使った詩が現れたという。例:「チュノム」という言葉はチュノムで書けば「字喃」であり、クオックゲー字にすれば「Chữ Nôm」になる。その中「喃」=「口」+「南」は南(国)の人の(話す)言葉だという意味である。歴史上では、胡季犛執政期間と、西山(タイソン)朝の阮恵(グエン・フエ)の時期に漢字・チュノム混じり表記のベトナム語が中央の公文書に制式言語として採用された。
- 7) ベトナム(阮朝)の文人グエン・ズー(阮攸。1765~1820)が、『金雲翹伝』(清・青心才人編述)から翻案した3,254行の長編叙事詩である。
- 8) 1945年に不便性と非効率性を理由に漢字とチュノムは排除された。
- 9) 1906年にベトナムにおいてファン・チュー・チンを始め、知識層によって発動された維新運動の標語である。この運動は伝統的にベトナムを支配してきた儒教からの脱却を目標として、その中で主に近代化や西欧思想の普及、民族の文明開化、社会の全面的改革、クオックゲー文字による教育の奨励、商・工業及びその技術の復活が唱えられた。
- 10) 漢学や儒教などの古い学問と区別して、西欧学という意味である。
- 11) 1904年頃に組織されたベトナムの独立民族運動のことである。東遊運動はフランス植民地支配からの脱却を目指し、人材育成の重要性を主張した。独立運動の若い指導者を育て

ようと、優れた青年らを日本に送った。ここで言う「東」は日本のことを指す。

- 12) 単行本として出版された作品である。但し、現物で確認できないより早い時期に翻訳された作品、あるいは雑誌に投稿されたものは対象にしない。
- 13) 記者のタイ・テイ・ウック Thái Thị Úc のペンネーム。
- 14) Cf. Phan Mạnh Hùng “Komatsu Kiyoshi và Cuộc tái ngộ” (小松清と『再会』)。
- 15) 第一次インドシナ戦争を終結させるために 1954 年スイスのジュネーブで開かれた和平会談によって合意された休戦協定。この協定はベトナムの南北分断の原因となった。
- 16) 社会主義に対する批判などの政治に関わる作品や性的表現が多く、不道德だと思われる作品を意味する。
- 17) 1989 年に行われた全ベトナム出版会議で伝えられたことである。
- 18) <http://dichthuat.pro.vn/noi-buon-van-hoc-dich-thuat/>を参照。

参考文献

- Even-Zohar, I. (2000). ‘The Position of Translated Literature within the Literary Polysystem’, in L.Venuti (ed.) *The Translation Studies Reader*, Routledge, pp. 192-197.
- Hà Văn Lương (2003). ‘Tình hình nghiên cứu và dịch văn học Nhật Bản ở Việt Nam’ (ベトナムにおける日本文学翻訳・研究現状), *Tạp chí Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Nam Á* (日本東南アジア研究雑誌), số 4.
- Hoàng Thúy Toàn (1999). *Không phải của riêng ai – Dịch văn học & Văn học dịch* (誰の物でもない文学を翻訳することと翻訳文学) Nxb. Văn học & Trung tâm Văn hóa Ngôn ngữ Đông Tây.
- Nguyen Thanh Tam (2013). 「ベトナムにおける日本文学の翻訳についての研究」(修士論文)
- Nguyễn Thị Thanh Xuân (ed.) (2008). *Văn học Nhật Bản ở Việt Nam* (ベトナムにおける日本現代文学) Nxb. Đại học Quốc gia TP.Hồ Chí Minh.
- Nguyễn Văn Hiệu (2007). ‘Ý thức văn hóa trong dịch thuật văn chương ở Việt Nam từ cuối thế kỷ XIX đến năm 1945’ (ベトナムにおける 19 世紀から 1945 年にかけての文学翻訳での文化的意識), *Tạp chí Nghiên cứu Văn học* (文学研究誌) số 1-2007.
- Shuttleworth, M. (2009) . ‘Polysystem’, in M.Baker & G.Saldanha (eds.) *Routledge Encyclopedia of Translation Studies. 2nd edition*, Routledge, pp.197-200.
- Tran Thi Chung Toan (2010). 「ベトナムにおける日本文学の翻訳・出版・教育・研究—現在及び今後の課題—」 立命館言語文化研究 第21巻3号 pp43-52
- Vĩnh Sinh (2000). ‘Về tác phẩm “Giai nhân kỳ ngộ diễn ca” của Phan Châu Trinh: nguồn gốc và ý nghĩa’ (ファン・チュ・チンの『佳人奇遇』訳について：原点と意義), *Kỷ yếu hội thảo quốc tế Việt Nam học lần thứ nhất 1998, Tập II*, Nxb. Thế giới, Hà Nội.

インターネット

Phan Mạnh Hùng (2012) ‘Komatsu Kiyoshi và Cuộc tái ngộ’ (小松清と『再会』),

http://khoavanhoc-ngonngu.edu.vn/home/index.php?option=com_content&view=article&id=3029%3Akomatsu-kiyoshi-va-cuc-tai-ng&catid=63%3Avn-hc-vit-nam&Itemid=106&lang=en, 最終閲覧日 2012年9月30日。

Nỗi buồn văn học dịch thuật（文学翻訳の悩み）,
<http://dichthuat.pro.vn/noi-buon-van-hoc-dich-thuat/> 最終閲覧日 2012年9月30日。

資料

ベトナムにおける日本文学の出版書籍の一覧表

※参考のため、ベトナム語版のタイトルの直訳を付けた。

| 通し 番号 | 翻訳タイトル | 作品名 | 作家名 | 翻訳者 | 出版社 | 出版 年 | 出版 地 | 重訳 | 原文 （日 本語の 使用： 有= ○） |
|----------|---|----------------------|-----------|----------------|-------------|---------|------------|--|------------------------------------|
| | | | | | | | | 媒介 言語 （媒介 言語が 不明な 重訳= ○） | |
| 1 | Bên thi hài người vợ （妻の死体のそばに） | 絶後の記録 亡き妻への 手紙 | 小倉豊文 | | | 1958 | | ○ | |
| 2 | Khu phố không ánh mặt trời- Núi đồi yên lặng （太陽のない街） | 太陽のない 街 | 徳永直 | | Lao Động | 1961 | | ○ | |
| 3 | Người đàn bà trong cồn cát (砂丘の中の女) | 砂の女 | 安部公房 | Trùng Dương | An Tiêm | 1962 | Hà Nội | ○ | |
| 4 | Tàu nhà máy cua hộp （蟹缶詰の工船） | 蟹工船 | 小林多喜 二 | | Văn học | 1963 | | ○ | |
| 5 | Cánh đồng Bansu (播州 の畑) | 播州平野 | 宮本百合 子 | | Văn học | 1964 | | ○ | |
| 6 | Thân phận con người （人間の宿命） | | 芥川龍之 介 | Diễm Châu | Văn nghệ | 1966 | Sài Gòn | 英語 | |
| 7 | Truyện của một người lãng trí (健忘症の人の物 語) | 河童 | 芥川龍之 介 | Diễm Châu | Văn | 1966 | Sài Gòn | ○ | |

| | | | | | | | | | |
|----|-----------------------------------|------------|------------------------------|---|-------------------|------|------------|----|---|
| 8 | Lã sinh môn (羅生門) | 羅生門 | 芥川龍之 介 | Vũ Minh Thiều | Gió bốn phương | 1967 | Sài Gòn | O | |
| 9 | Một bản tình ca (愛の歌) | | 原田康子 | Bích Kim | Cáo Thom | 1968 | Sài Gòn | O | |
| 10 | Chết giữa mùa hè (真夏の死) | 真夏の死 | 三島由紀 夫 | Tân Linh | Phù Sa | 1969 | Sài Gòn | O | |
| 11 | Cô vũ nữ xứ Izu (伊豆の踊子) | 伊豆の踊子 | 川端康成 | Huyền Không | Trình bày | 1969 | | O | |
| 12 | Em bé Phù Tang (日本の子) | | Ishoco & Ichiro Hatano | Trương Đình Cừ | Lá Bối | 1969 | | O | |
| 13 | Ngàn cánh hạc (千羽鶴) | 千羽鶴 | 川端康成 | Trùng Dương | Trình bày | 1969 | Sài Gòn | O | |
| 14 | Xứ tuyết (雪国) | 雪国 | 川端康成 | Chu Việt | Trình bày | 1969 | Sài Gòn | O | |
| 15 | Năm dài tình yêu (恋の 長年) | 恋愛無限? | 中河与一 | Phạm Quốc Bảo | Hồng Linh | 1969 | Sài Gòn | O | |
| 16 | Kim Các tự (金閣寺) | 金閣寺 | 三島由紀 夫 | Đỗ Khánh Hoan & Nguyễn Tường Minh | An Tiêm | 1970 | Sài Gòn | 英語 | O |
| 17 | Gót chân giang hồ (流 浪の踵) | 膝栗毛 | 十返舎一 九 | Trương Sinh | Hải Âu | 1970 | Sài Gòn | O | |
| 18 | Nuôi thù (敵を飼育) | 飼育 | 大江健三 郎 | Diễm Châu | Trình bày | 1970 | Sài Gòn | 英語 | |
| 19 | Cây đàn Miến Điện (ビルマの堅琴) | ビルマの堅 琴 | 武山道雄 | Đỗ Khánh Hoan | Sáng tạo | 1971 | Hà Nội | O | |
| 20 | Chiều hôm lỡ chuyến (午後の航を遅れる) | 午後の曳航 | 三島由紀 夫 | Đỗ Khánh Hoan & Nguyễn Tường Minh | Sông Thao | 1971 | Sài Gòn | 英語 | O |
| 21 | Góp nhặt cát đá (砂石 を拾う) | | Muju thiền sư | Đỗ Đình Đông | Lá Bối | 1971 | Sài Gòn | O | |
| 22 | Hòa ca | | | Nguyễn | Sông | 1971 | Sài | | |

| | (和歌) | | | Tường Minh | Thao | | Gòn | | |
|----|---|----------------|-----------|---|----------------|------|------------|----------|---|
| 23 | Tiếng sóng (波の音) | 潮騒 | 三島由紀 夫 | Đỗ Khánh Hoan & Nguyễn Tường Minh | Sông Thao | 1971 | Sài Gòn | 英語 | ○ |
| 24 | Băng điểm (氷点) | 氷点 | 三浦綾子 | Liêu Quốc Nhĩ | Đông phương | 1972 | Sài Gòn | 中国 語 | |
| 25 | Luyến ca (恋歌) | | | Nguyễn Tường Minh | | 1972 | Sài Gòn | | |
| 26 | Ngàn cánh hạc | 千羽鶴 | 川端康成 | Tuấn Minh | Sống mới | 1972 | Sài Gòn | ○ | |
| 27 | Nỗi lòng (こころ) | こころ | 夏目漱石 | Đỗ Khánh Hoan & Nguyễn Tường Minh | Sông Thao | 1972 | Sài Gòn | 英語 | ○ |
| 28 | Thần thoại Nhật Bản (日本の神話) | | | Doãn Quốc Sĩ | Sáng tạo | 1972 | Hà Nội | ○ | |
| 29 | Về cố hương (帰故郷) | 帰郷 | 大佛次郎 | Bùi Ngọc Lâm | Đất Sống | 1973 | | ○ | |
| 30 | Yêu trong mùa thu (秋の愛) | | 原田康子 | Mặc Đỗ | Đất mới | 1973 | | ○ | |
| 31 | Rập rờn cánh hạc (微 かの鶴の羽) | 千羽鶴 | 川端康成 | Nguyễn Tường Minh | Sông Thao | 1974 | Sài Gòn | | ○ |
| 32 | Sau bữa tiệc (宴のあと) | 宴のあと | 三島由紀 夫 | Tuyết Sinh | Trẻ | 1974 | | ○ | |
| 33 | Đường đến nguồn nước (水源への道) | | | | Lao động | 1984 | | ロシ ア語 | |
| 34 | Người đàn bà mà tôi ràng bỏ (わたしが棄て た女) | わたしが・ 棄てた・女 | 遠藤周作 | Đoàn Từ Huyền | Lao động | 1984 | | ロシ ア語 | |
| 35 | Hạnh phúc và bất hạnh (幸福と不幸) | | | | Phụ nữ | 1985 | | | |
| 36 | Tháng tám vắng bóng | 皇帝のいな | 小林久三 | Nguyễn | Cửu Long | 1985 | | ロシ | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|----------|--------------|-------------------|---------------------|------|---------|---------|--|
| | Nhật hoàng (天皇がいない8月) | い八月 | | Đỗ | | | | ア語 | |
| 37 | Khuôn mặt người khác (他人の顔) | 他人の顔 | 安部公房 | Phạm Mạnh Hùng | Đà Nẵng | 1986 | | ロシア語 | |
| 38 | Vũ nữ Izu (伊豆の踊り子) | 伊豆の踊子 | 川端康成 | Thái Hà | Tác phẩm mới | 1986 | | 英語 | |
| 39 | Truyện cười Nhật Bản (日本の笑い話) | | 多著者 | Nhật Chiêu | Cà Mau | 1987 | | | |
| 40 | Những năm tháng thu tàn (残秋の年月) | | 有吉佐和子 | Hoàng Hữu Do | Phú Khánh | 1987 | | O | |
| 41 | Cố đô (古都) | 古都 | 川端康成 | Thái Văn Hiếu | Hải Phòng | 1988 | Hà Nội | | |
| 42 | Đèn không hắt bóng (影のない灯) | 無影灯 | 渡辺淳一 | Cao Xuân Hạo | Nghĩa Bình | 1988 | | ロシア語 | |
| 43 | Đốm lửa lạc loài- Truyện tình Nhật Bản (場違い斑点の火-日本のロマン・ストーリー) | | 川端康成 & 三浦哲郎 | Nguyễn Đức Dương | Văn nghệ | 1988 | | 英語、ロシア語 | |
| 44 | Khát vọng yêu đương (愛の憧れ) | 愛の渴き | 三島由紀夫 | Phạm Xuân Thảo | An Giang | 1988 | | O | |
| 45 | Ngàn cánh hạc (千羽鶴) | 千羽鶴 | 川端康成 | Giang Hà Vỹ | Tổng hợp Kiên Giang | 1988 | | O | |
| 46 | Vùng băng tuyết (雪の域) | 雪国 | 川端康成 | Giang Hà Vỹ | Mũi Cà Mau | 1988 | | O | |
| 47 | Cậu bé thông minh Hikoichi (頭がよいヒコイチ君) | 彦一とんちばなし | 土家由岐雄 & 新井五郎 | Nguyễn Mạnh Hùng | Mãng Non | 1988 | TP.H CM | O | |
| 48 | Năm người đàn bà si tình (好色五人女) | 好色五人女 | 井原西鶴 | Phạm Thị Nguyệt | Tiền Giang | 1988 | Sài Gòn | O | |
| 49 | Hẹn mùa hoa cúc (菊の季節の約束) | | 上田秋成 | Nguyễn Trọng Địch | Văn học | 1989 | | O | |
| 50 | Chiếc chìa khóa (鍵) | 鍵 | 谷崎潤一 | Phạm Thị | Phụ Nữ | 1989 | | O | |

| | | | 郎 | Hoài | | | | | |
|----|--|------------|------------|-------------------------------|-------------------------------------|------|--------|-------|---|
| 51 | Người đàn bà tôi thương (我が愛する女) | | 谷崎潤一郎 | Triệu Lam Châu | Nghĩa Bình | 1989 | Hà Nội | O | |
| 52 | Người đàn bà trong cồn cát (砂丘の中の女) | 砂の女 | 安部公房 | Nguyễn Tuấn Khanh | Văn học | 1989 | | 英語 | |
| 53 | Tiếng rền của núi (山の嘆き) | 山の音 | 川端康成 | Ngô Quý Giang | Thanh niên | 1989 | | フランス語 | |
| 54 | Tình trong bóng tối (暗闇の中の愛) | 盲目物語 | 谷崎潤一郎 | Nhật Chiêu | Văn nghệ | 1989 | | 英語 | O |
| 55 | Truyện kể Heike (平家物語) | 平家物語 | (作者不明) | | Khoa học xã hội | 1989 | | 英語 | |
| 56 | Truyện ngắn chọn lọc (短編集) | | 芥川龍之介 | Lê Văn Viện | Văn Học | 1989 | | | |
| 57 | Cô bé bên cửa sổ (窓際の女の子) | 窓ぎわのトットちゃん | 黒柳徹子 | Phí Văn Gùng & Phan Duy Trọng | Kim Đồng | 1989 | | 英語 | |
| 58 | Người săn gấu và mèo rừng (熊ハンターと山猫) | | 宮澤賢治 | Vương Trọng | Văn hóa dân tộc | 1990 | | O | |
| 59 | Ngoài đền vàng (金のお寺) | 金閣寺 | 三島由紀夫 | Lê Lộc | Thanh niên | 1990 | | 英語 | |
| 60 | Người đẹp ngủ say (眠っている美人) | 眠れる美女 | 川端康成 | Vũ Đình Phòng | Văn học | 1990 | | O | |
| 61 | Sấm xa (遠雷) | 遠雷 | 立松和平 | Huỳnh Thị Chi Mai | Tác phẩm mới & Hội Nhà văn Việt Nam | 1990 | | O | |
| 62 | Kẻ lừa đảo (詐欺師) | | Matshumoto | Chu Trọng Thu | Văn học | 1991 | Hà Nội | O | |
| 63 | Tình yêu không quên (忘れられない恋) | それから | 夏目漱石 | Bích Phương | Văn nghệ | 1991 | | O | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|-------------|--------------------|-------------------------------------|-------------------------------|------|-----------|---------------|---|
| 64 | Truyện Genji (源氏物語) | 源氏物語 | 紫式部 | 多翻訳者 | Khoa học xã hội | 1991 | | 英語 | |
| 65 | Núi đồi yên lặng (静かな山野) | | | | Văn học | 1992 | | ○ | |
| 66 | Sự sụp đổ của gia đình Nire (ニレ家の崩れ) | 楡家の人々 | 北杜夫 | Phạm Thủy Ba | Khoa học xã hội | 1992 | Hà Nội | ○ | |
| 67 | Dòng sông sao (星の川) | | | | Lao động | 1993 | | ○ | |
| 68 | Gia đình (家族) | 家 | 島崎藤村 | Hạnh Liên & Hải Thanh | Văn hóa dân tộc | 1994 | | ○ | |
| 69 | Bashô và thơ haiku (芭蕉と俳句) | | 松尾芭蕉 | | Văn học | 1994 | | | |
| 70 | Xứ tuyết (雪国) | 雪国 | 川端康成 | Ngô Văn Phú & Vũ Đình Bình | Hội nhà văn | 1995 | Hà Nội | フラ ンス 語 | |
| 71 | Tự sát ngày đính hôn (婚約日の自殺) | | Xâytor Maxumoto | Nguyễn Đức Thuần | Thanh niên | 1996 | Hà Nội | ○ | |
| 72 | Rừng Na-uy (ノルウェ イの森) | ノルウェ イの森 | 村上春樹 | Hạnh Liên- Hải Thanh | Văn học | 1996 | Hà Nội | 英語 | |
| 73 | Giấc mộng đàn bà (女の 夢) | | | | Văn học | 1997 | | ○ | |
| 74 | Một nỗi đau riêng (個人的な痛み) | 個人的な体 験 | 大江健三 郎 | Lê Kỳ Thương | Văn nghệ | 1997 | | 英語 | |
| 75 | Lối lên miền Oku (奥に上がる細道) | 奥の細道 | 松尾芭蕉 | Vĩnh Sinh (翻訳と 解説) | Thế giới | 1998 | | | ○ |
| 76 | Nhà bếp (キッチン) | キッチン | よしもと ばなな | Trần Thị Chung Toàn | Đại học Quốc gia Hà Nội | 2000 | | ○ | |
| 77 | Tuyển tập truyện ngắn R.Akatagawa | | 芥川龍之 介 | | Hội nhà văn | 2000 | | | |

| | | | | | | | | | |
|----|--|----------------|-------------|---------------------------|--|------|-----------|----------|---|
| | (芥川の短編集) | | | | | | | | |
| 78 | Tuyển tập Y.Kawabata (川端の作品集) | | 川端康成 | | Hội nhà văn | 2001 | | | |
| 79 | Đường lên ngân hà (銀河への道) | 銀河鉄道の 夜 | 宮澤賢治 | Nguyễn Đỗ An Nhiên | Trẻ | 2002 | | | ○ |
| 80 | Những người Nhật bị lãng quên (忘れられてい る日本人たち) | | | | Giáo dục | 2002 | | | |
| 81 | Cậu ấm ngây thơ (素直な坊ちゃん) | 坊っちゃん | 夏目漱石 | Bùi Thị Loan | Hội nhà văn | 2004 | Hà Nội | | ○ |
| 82 | Tuyển tập tác phẩm Kawabata (川端の作品集) | | 川端康成 | Nhiều dịch giả 多翻訳者 | Lao Động và Trung tâm Văn hóa Đông Tây | 2005 | Hà Nội | 英語 など | |
| 83 | Biên niên ký chim vặn dây cót (ねじまき鳥ク ロニクル) | ねじまき鳥 クロニクル | 村上春樹 | Trần Tiến Cao Đăng | Hội nhà văn | 2006 | | 英語 | |
| 84 | Đom đóm (蛍) | 螢 | 村上春樹 | Phạm Vũ Thịnh | Đà Nẵng | 2006 | | | ○ |
| 85 | Kitchen | キッチン | よしもと ばなな | Lương Việt Dũng | Hội nhà văn | 2006 | | | ○ |
| 86 | N.P | N.P | よしもと ばなな | Lương Việt Dũng | Hội nhà văn | 2006 | | | ○ |
| 87 | Ngày đẹp trời để xem Kangaroo (カンガルーを 見るための日和) | カンガルー 一日和 | 村上春樹 | Phạm Vũ Thịnh | Đà Nẵng | 2006 | | | ○ |
| 88 | Rừng Na-uy (ノルウェイの森) | ノルウェイ の森 | 村上春樹 | Trịnh Lữ | Hội nhà văn | 2006 | | 英語 | |
| 89 | Sau cơn động đất (地震のあとで) | 地震のあと で | 村上春樹 | Phạm Vũ Thịnh | Đà Nẵng | 2006 | | | ○ |
| 90 | Trình tiết- Tuyển tập truyện ngắn Akutagawa (みさお - 芥川の短編 集) | | 芥川龍之 介 | Cung Điền | Văn học | 2006 | | | ○ |
| 91 | Bóng ma ở Lexington (レキシントンの幽 トンの幽 | レキシント ンの幽 | 村上春樹 | Phạm Vũ Thịnh | Đà Nẵng | 2007 | Hà Nội | | ○ |

| | 霊) | 霊 | | | | | | | |
|-----|--|--------------|---------|------------------|------------------|------|---------|----------|---|
| 92 | Kafka bên bờ biển (海辺のカフカ) | 海辺のカフカ | 村上春樹 | Dương Tường | Hội nhà văn | 2007 | | 英語、フランス語 | ○ |
| 93 | Mộng (夢) | 夢十夜? | 夏目漱石 | An Nhiên | Trẻ | 2007 | | | ○ |
| 94 | Người Ti vi (TV बीबल) | TV बीबल | 村上春樹 | Phạm Vũ Thịnh | Đà Nẵng | 2007 | | | ○ |
| 95 | Phía Nam biên giới, phía Tây mặt trời (国境の南、太陽の西) | 国境の南、太陽の西 | 村上春樹 | Cao Việt Dũng | Hội nhà văn | 2007 | | フランス語 | |
| 96 | Sau nửa đêm (アフターミッドナイト) | アフターダーク | 村上春樹 | Huỳnh Thanh Xuân | Công an nhân dân | 2007 | | | |
| 97 | Vĩnh biệt Tsugumi (さよならつぐみ) | TUGUMI | よしもとばなな | Vũ Hoa | Đà Nẵng | 2007 | | | ○ |
| 98 | Vườn cúc mùa thu (秋の菊の庭) | | 複数の著者 | Nguyễn Nam Trân | Trẻ | 2007 | Sài Gòn | | |
| 99 | Amrita | アムリタ | よしもとばなな | Trần Quang Huy | Hội nhà văn | 2008 | | | |
| 100 | Đôi mắt ấy vẫn ở trên giường (その目はまだベッドの上に) | ベッドタイムアイズ | 山田詠美 | Lương Việt Dũng | Hội nhà văn | 2008 | | | ○ |
| 101 | Giáo sư và công thức toán (教授と数式) | 博士の愛した数式 | 小川洋子 | Lương Việt Dũng | Hội nhà văn | 2008 | Hà Nội | | ○ |
| 102 | Màu xanh trong suốt (透明なブルー) | 限りなく透明に近いブルー | 村上龍 | Trần Phương Thuý | Văn học | 2008 | | | ○ |
| 103 | Người tình Sputnik (スプートニクの恋人) | スプートニクの恋人 | 村上春樹 | Ngân Xuyên | Hội nhà văn | 2008 | | | ○ |
| 104 | Ring Vòng tròn ác nghiệt (リング) | リング | 鈴木光司 | Lương Việt Dũng | Văn học | 2008 | Sài Gòn | | ○ |
| 105 | Say ngủ (眠る) | 白河夜舟 | よしもとばなな | Trương Thị Mai | Văn hoá Sài Gòn | 2008 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|---|----------------------|------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|------|------------|----|---|
| 106 | Sống lưng của Jesse (ジェシーの背骨) | ジェシーの 背骨 | 山田詠美 | Thùy Duong Na | Văn hoá Sài Gòn | 2008 | | | ○ |
| 107 | Thần lẩn (とかげ) | とかげ | よしもと ばなな | Nguyễn Phuong Chi | Văn học | 2008 | Hà Nội | | ○ |
| 108 | Tottochan- Cô bé bên cửa sổ (トットちゃんー 窓ぎわの女の子) | 窓ぎわのト ットちゃん | 黒柳徹子 | Anh Thư | Lao động | 2008 | Sài Gòn | 英語 | |
| 109 | Trẻ em trong ngọn lửa chiến tranh | 戦火のなか の子どもた ち | いわさき ちひろ | Đoàn Ngọc Cảnh | Phụ nữ | 2008 | Sài Gòn | | |
| 110 | Xuyên thấu (ピアッシ ング) | ピアッシ ング | 村上龍 | Lê Thị Hồng Nhưng | Văn học | 2008 | | | ○ |
| 111 | 69 | 69 sixty nine | 村上龍 | Hoàng Long | Văn học | 2009 | | | ○ |
| 112 | Socrates đang yêu (ソク ラテス・イン・ラブ) | 世界の中心 で、愛をさ けぶ | 片山恭一 | Minh Châu Uyên Thiểm dịch | Hội nhà văn | 2009 | Sài Gòn | | ○ |
| 113 | 3 đêm trước giao thừa (大晦日の前の3つ夜) | インザ・ミ ソスープ | 村上龍 | Song Tâm Quyên | Văn học & Bách Việt | 2009 | | | ○ |
| 114 | Bên trong (中) | | 複数の著 者 | Trần Thủy Mai | Thuận Hoá | 2009 | Sài Gòn | | |
| 115 | Chuyện đồng thoại Nhật Bản (日本の童話) | | Midorika wa Shinichiro | Phan An | Kim Đồng | 2009 | | ○ | |
| 116 | Đẹp và buồn (美しさと哀しみ) | 美しさと哀 しみと | 川端康成 | Mai Kim Ngọc | Văn hoá Sài Gòn | 2009 | | ○ | |
| 117 | Ngầm (地下) | アンダーグ ラウンド | 村上春樹 | Trần Đình | Văn hoá Sài Gòn | 2009 | | 英語 | |
| 118 | Nhật ký mang thai (妊娠のダイアリー) | 妊娠カレン ダー | 小川洋子 | Lương Việt Dũng | Văn học | 2009 | | | ○ |
| 119 | Phía sau nghi can X | 容疑者 X の | 東野圭吾 | Trương | Văn hoá | 2009 | | | ○ |

| | | | | | | | | | |
|-----|---|-----------------------|-------|----------------------------|-----------------|------|--------|----|---|
| | (容疑者 X の後ろ) | 献身 | | Thùy Lan | Sài Gòn | | | | |
| 120 | Rắn và khuyên lưỡi (蛇と舌のピアス) | 蛇にピアス | 金原ひとみ | Uyên Thiêm | Văn học | 2009 | | | |
| 121 | Thử vai (オーディション) | オーディション | 村上龍 | Trần Thanh Bình | Văn hoá Sài Gòn | 2009 | | | ○ |
| 122 | Trò đùa của những ngón tay (指の遊び) | 指の戯れ | 山田詠美 | An | Văn học | 2009 | | | ○ |
| 123 | Vòng xoáy chết (死のらせん) | らせん | 鈴木光司 | Võ Hồng Long | Văn học | 2009 | | | |
| 124 | Vùng nước hắc ám (仄暗い水) | 仄暗い水の底から | 鈴木光司 | Phong Linh | Văn học | 2009 | | | |
| 125 | Bí mật của Naoko (なおこの秘密) | 秘密 | 東野圭吾 | Uyên Thiêm Trương Thuỳ Lan | Thời đại | 2010 | | | ○ |
| 126 | Cái lưng muốn đá (蹴りたい背中) | 蹴りたい背中 | 綿矢りさ | Nguyễn Thanh Vân | Hà Nội | 2010 | | | ○ |
| 127 | Khu vườn mùa hạ (夏の庭) | 夏の庭 | 湯本香樹実 | Nguyễn Thanh Hà | Văn học | 2010 | | | ○ |
| 128 | Người đẹp ngủ mê (眠っている美人) | 眠れる美女 | 川端康成 | Quế Sơn | Thời đại | 2010 | Hà Nội | 英語 | |
| 129 | Người đón tàu (電車を迎える人) | 鉄道員 | 浅田次郎 | Phạm Hữu Lợi | Văn học | 2010 | | | |
| 130 | Phong vị tuyệt vời | 無銭優雅 | 山田詠美 | Hương Vân | Văn học | 2010 | | | |
| 131 | Trăng du dương | | 天藤湘子 | Nguyễn Bảo Trang | Phụ nữ | 2010 | | | |
| 133 | Xứ sở diệu kỳ tàn bạo và chôn tận cùng thế giới (ハードボイルド・ワンダーランドと世界の終り) | 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド | 村上春樹 | Lê Quang | Nhã Nam-Văn học | 2010 | | | ○ |
| 133 | Anh chàng xe điện (電車の男) | 電車男 | 中野独人 | Trương Thuỳ Lan | Hội nhà văn | 2011 | | | ○ |

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------------------------------|---------------------|-----------|--|----------------------------|------|------------|--|---|
| 134 | Cuộc săn cừu hoang (野良羊の狩り) | 羊をめぐる 冒険 | 村上春樹 | Minh Hạnh | Văn học | 2011 | | | |
| 135 | Mắt trần (裸の目) | 旅をする裸 の眼 | 多和田葉 子 | Thu Hương Thanh Tâm Cầm Nhưng | Phụ nữ | 2011 | | | O |
| 136 | Ngực và trứng (胸と卵) | 乳と卵 | 川上未映 子 | Song Tâm Quyên | Phụ nữ | 2011 | | | O |
| 137 | Nhảy, nhảy, nhảy (ダンス・ダンス・ダ ンス) | ダンス・ダ ンス・ダン ス | 村上春樹 | Trần Văn Anh | Hội nhà văn | 2011 | | | O |
| 138 | Thất lạc cõi người (人生の喪失) | 人間失格 | 太宰治 | Hoàng Long | Hội nhà văn | 2011 | Hà Nội | | O |
| 139 | Lấp lánh (きらきら) | きらきらひ かる | 江國香織 | Phạm Quỳnh Nga | Văn hóa-Văn nghệ HCM | 2011 | TP.H CM | | O |
| 140 | Quán trọ hoa diên vĩ (アイリスの宿) | ホテル・ア イリス | 小川洋子 | Lan Hương | Văn học | 2011 | | | O |